

食品保健指導士の使命と、次なる一步

会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、平素より当会の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度の活動を振り返りますと、は多くの現場で啓発活動を展開することができました。特に「東京都食育フェア」や「西日本食品産業創造展 2025」をはじめとする展示会での活動は、食品保健指導士の専門性を広く社会に伝える貴重な機会となりました。現場で消費者の皆様と直接対話をし、健康に関する疑問や不安に寄り添う指導士の姿こそが、私たちの活動の原点であり、社会から求められている役割であると再認識しております。組織の基盤強化におきましても、資料作成委員会やホームページの改修作業、そして活発な意見交換が行われた EX ミーティングや全国代表者会議を通じて、次代を見据えた土台作りが進みました。月 2 回のメールマガジン配信を通じた情報共有も、会員皆様の研鑽の一助となったことと存じます。

これら全ての活動は、現場で尽力された会員の皆様、そして運営を支えてくださった幹事・役員の皆様の熱意とご尽力の賜物です。改めて心より感謝申し上げます。

社会が健康情報に溢れる今、私たち食品保健指導士が果たすべき責任はより一層大きなものとなっています。次年度も、確かな知識の普及と消費者への正しい情報提供を通じて、国民の健康増進に寄与する団体として、さらなる飛躍を目指してまいります。

最後に、会員の皆様のさらなるご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げますとともに、引き続き当会の活動への温かいご支援とご協力をお願い申し上げ、巻頭の挨拶とさせていただきます。

引き続き、日本食品保健指導士会の活動にご協力の程、よろしく申し上げます。

(報告者:鳥沢泰弘)

各支部活動報告

① 九州支部・支部活動報告(令和7年度 福岡市民健康セミナー)

ーダイアベティス（糖尿病）への「気づき」から始まる健康づくり

令和7年11月16日、TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホールにて、福岡市医師会・福岡市・栄養士会・歯科医師会等の主催による恒例の健康イベントが開催されました。「今 知ろう！ダイアベティス（糖尿病）気づきからはじまる健康づくり」をキャッチフレーズに掲げた本セミナーは、健康意識の高い市民から長年支持されており、今年も例年通り健康に関心の高い中高年層を中心に多くの方々が来場されました。

・多彩なプログラムと専門職の連携

プログラムは、大島眼科病院の田代憲司先生による基調講演「糖尿病から『見える』を守る ～内科医がお話する目の話～」をはじめ、フレイル予防のための「マルチコ運動」、各専門職によるミニレクチャー、血糖値やヘモグロビン A1c の測定体験コーナーなど、多岐にわたる内容で展開されました。



・食品保健指導士コーナー：高まるサプリメントへの関心

当会が担当した相談コーナーでは、健康食品やサプリメントに対する関心の高さが顕著に現れていました。「自分に合ったサプリメントをどう選べばよいか」「日々の食生活にどう取り入れるべきか」といった具体的な質問が多く寄せられ、一般市民の皆様にとってサプリメントの専門家によるアドバイスが不可欠であることを改めて痛感いたしました。



・今後の課題と展望

今回の活動を通じて、市民のニーズに応えるための以下の課題が見えてきました。

展示の視覚化： 限られたスペースの中でより分かりやすく説明を行うため、パネルやポスターなど、一目で理解を助ける展示物の工夫が必要です。

組織的な支援と連携： 効果的な啓発活動のため、本部との連携を強化し、資材の充実を図る必要があります。また、参加者の満足度向上（役立ち感の創出）のため、関連企業の協力によるサンプル提供などの検討も有効であると感じました。

今回の有意義な学びを活かし、次回の開催に向けてより充実した支援体制を整えてまいります。
(報告者:武藤麻衣子・九州支部幹事)

② 本部署活動報告(東京都食育フェア参加報告)

令和7年11月8日(土)・9日(日)「第17回東京都食育フェア」において、当会はブースを出展し、健康食品や保健機能食品に関する普及啓発活動を行いました。当日は天候の変化もありましたが、多くの来場者で賑わい、指導士一同、消費者との対話を通じて有意義な時間を共有いたしました。



○活動概要と当日の取り組み

今回のブースでは、以下の内容を中心に、健康食品への正しい理解を深めていただくための説明を行いました。

- ・健康食品と保健機能食品（特定保健用食品・機能性表示食品・栄養機能食品）の定義と違い
- ・食品と医薬品の明確な区別
- ・摂取時の留意事項と上手な選び方

【昨年との変更点】 今年度より、定時の説明開始を取りやめ、ブース付近の集客状況に合わせてタイムリーに説明を開始する手法を導入しました。この判断が功を奏し、参加者



を待たせるストレスを軽減できただけでなく、途中から参加される方の増加にもつながり、より多くの来場者にアプローチすることができました。

指導士たちの声：学びと気づき

参加した指導士からは、今回の活動を通じて多くの貴重な経験が得られたという声が寄せられています。(会報誌 Vol47 参照)

1. 消費者の現状と課題（認識のギャップ） 多くの指導士が共通して実感したのは「消費者の方々は、トクホや機能性表示食品の存在は知っていても、その詳細な違いや選び

方については十分に理解できていない」という点です。

- ・ 広告に惑わされ、自分に必要なものを選んでいない現状がある。
- ・ 医療従事者でさえも機能性表示食品の詳細な定義については不明瞭なケースがある。
- ・ 原材料名や添加物など、表示に関する疑問の声が数多く寄せられた。

2. 専門家としての「アウトプット」の重要性 指導士にとって、一般の方々に専門知識を分かりやすく噛み砕いて説明するプロセスは、自身の知識を再構築し、磨き上げる絶好の機会となりました。



- ・ 「聞くことを目的としていない人」に興味を持ってもらうには、図解や実物パッケージの活用、具体的なエピソードトークが不可欠である。
- ・ 質問を受け付けることで、消費者目線のリアルな疑問やニーズを把握できた。

3. 指導士同士の交流と連帯 ベテランから今回初めて参加された方まで、多様なバックグラウンドを持つ指導士同士の交流も大きな財産となりました。

- ・ 体調不良を乗り越えて参加された指導士が、仲間のヘルプにより無事に任務を果たすなど、チームワークの強さが発揮された。
- ・ 経験豊富な指導士の知識から学ぶことも多く、アドバイザースタッフとしての役割を再認識した。

今後の展望 今回の活動を通じて、「専門知識をいかに分かりやすく伝えるか」という課題と可能性が明確になりました。専門家としての信頼構築と、消費者の健康リテラシー向上を目指し、今後も積極的にイベント等へ参加・貢献していきたい今回の活動にご協力いただきました全ての指導士の皆様、およびご来場いただいた皆様に心より御礼申し上げます。この経験を次回の活動へとつなげ、さらなる啓発活動に取り組んでまいります。



(報告者:鳥沢泰弘)

③ 東海支部・支部活動報告

—「健康食品を安全に使いこなそう」食品保健指導士の役割を伝える



令和7年(2025年)12月16日(火)、名古屋市の「ウエルネス健診クリニック」にて開催された健康フェアに参加いたしました。本フェアへの参加は今年9月に続き3回目となります。

当日は健診を終えた方々が私たちのブースを訪れてくださいました。ブースでは機能性食品の展示とともに、「健康食品を安全に使いこなそう」というテーマで、紙媒体を活用したアドバイスを行いました。会場でお会いした方々の反応は実に様々です。

・すでに日常的に健康食品を積極的に取り入れている方・

・食品添加物に対して非常に慎重な考えをお持ちの方

・「新しい情報を得られた」と笑顔で喜んでくださる方

お一人おひとりの健康に対する意識に向き合いながら、適切な情報提供に努めました。-----
「食品保健指導士」への関心の高まり---

今回のフェアで特に印象的だったのは、「相談できる食品保健指導士がここにいる」という事実に興味を持たれた方が複数いらっしゃったことです。専門家による適切な助言が、生活者にとっていかに求められているかを再認識する機会となりました。



次回は令和8年(2026年)9月にも同フェアへの参加を予定しております。「自身の知識を地域貢献に活かしたい」「現場での相談対応を経験してみたい」とお考えの食品保健指導士の皆様、私たちと一緒に活動してみませんか? 名古屋近郊にお住まいで、ご興味のある方はぜひ一度お気軽にご連絡ください。皆様の参加を心よりお待ちしております。

(報告者:中林厚子・東海支部支部長)

④ 東海支部・支部活動報告

恒例工場見学会「上下水道の成り立ち」

——100年を紡ぐ水の物語、鍋屋上野浄水場を訪ねて

令和8年3月12日、東海支部恒例の工場見学会が名古屋市千種区の鍋屋上野浄水場にて開催されました。当日は雲ひとつない晴天に恵まれ、絶好の見学日和となりました。

100年の歴史を刻む、現役最古の浄水場

鍋屋上野浄水場は、明治43年（1910年）に着工し、大正3年（1914年）に給水を開始した名古屋市最古の浄水場です。驚くべきは、戦禍や数々の自然災害を乗り越え、100年以上一度も絶やすことなく市民の喉を潤し続けてきたという事実です。



水源は、中部地方が誇る木曾川。水量の豊かさと質の良さで知られるその原水は、犬山市の取水場から運ばれてきます。特筆すべきは、犬山から当浄水場までの25メートルの高低差を利用した自然流下です。電力に頼らず、地形の妙を活かして水を運ぶ先人の知恵には、参加者一同、深い感銘を受けました。

伝統の「緩速ろ過」と効率の「急速ろ過」

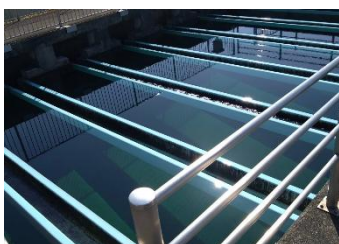
同浄水場の大きな特徴は、性質の異なる2つの浄水設備を併せ持っている点です。

- **緩速ろ過系統（創設期～）** 薬品を一切使わず、砂と砂利、そして微生物の力だけで浄化する伝統的工法です。1時間にわずか15cmという速さでじっくりと濾過されます。約4万㎡におよぶ広大な池には当日、鴨が飛来しており、その穏やかな光景が水質の良さを雄弁に物語っていました。
- **急速ろ過系統（昭和9年～）** 凝集剤を用いて濁りを固めて沈殿させる近代的な方式です。3層構造の沈殿池では、工程が進むにつれて池底が青々と透き通っていく様子が見て取れ、その透明度の高さに圧倒されました。

現在、国内約 2,400 カ所の浄水場のうち、緩速ろ過を採用しているのはわずか 300 カ所程度とのこと。効率化が進む現代において、これほど貴重な施設が名古屋の都心部に現役で存在している事実には、本見学会の意義を改めて実感いたしました。

「当たり前」を支える技術への感謝

蛇口をひねれば、そのまま飲める水が出る。この世界でも稀有な環境は、24 時間体制のコンピュータ管理や、災害への備え、そして先人たちが築き上げた強固なインフラによって支えられています。



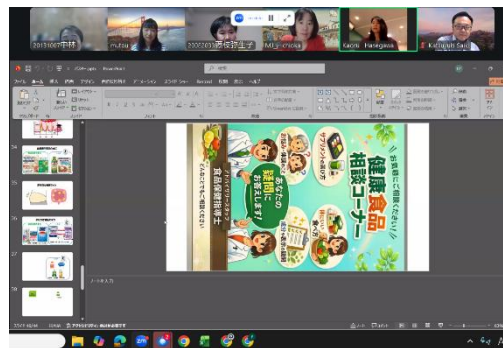
私たちの命に欠かせない「水道水」が、いかに多くの技術と歴史に裏打ちされているか。静かに水を湛える広大な浄水場を後にしながら、日々の当たり前な供給に対する感謝を深く刻んだ一日となりました。

(報告者:東海支部千種ゆう子)

⑤ 資料作成委員会の開催報告

食品保健指導士の啓蒙・啓発活動に使用できる資料作りを目的として2回の委員会を開催しましたので報告します。

令和8年3月25日と4月22日の20時からZOOMにて各回2時間ずつ開催しました。委員は九州支部の武藤指導士・関西支部の一岡指導士・東海支部の中林、本部幹事の藤枝指導士、本部幹事の長谷川指導士の5名と、打ち合わせには参加できませんでしたが、進行などのアドバイスを事前に頂くため東海支部事務局長の千種指導士とは、時間外での打ち合わせをさせて頂きながら、本部から鳥沢会長、オブザーバーとして大久保副会長、齋木副会長が参加されました。



第1回では、今後一層の啓発活動を行うにあたり、何をしている団体で、どのようなことを聞くことができるかが目に見えて、立ち寄りやすいイメージを持ってもらえる掲示物などのアイテムが必要と話し合われました。そして、次回開催までに「血圧」・「血糖」・「腸内環境」の3つをそれぞれのテーマとしたポスター案を考えることにしました。

第2回では、委員が考えてきた特徴を持ったポスターで意見が交わされ、どのようにしていくかが検討されました。結果としまして、「健康相談コーナー」のポスターは、出展



ブース背景に掲げるためA2（A4サイズ4枚分）の大ききで作成し、各支部で保有する。「血压」・「血糖」・「腸内環境」をテーマとしたポスターはそれぞれに特徴があるため、会員が使用したいものをダウンロードできるように今後回収中のホームページと連動させる方針となりました。また、現在使用しているパワポ資料は商品が特定されないように加工し簡潔化して、冊子化して来場者に配布できるようにしていく予定となりました。

これらは随時刷新され、新たに加えられていくものであります。注意事項として、著作権を侵害しないこと、文言は届け出表示に準拠した表現とすること、国立栄研データベースへの誘導方法を資料に含めること、ホームページ上のポスターは指導士会に帰属する。

さいごに、各支部が啓蒙・啓発活動に動き出しました。たくさんの試行錯誤をしていくことになりそうです。会員の皆様のご意見やご指導、ご参加をお待ちしております。

(報告者:本部幹事・中林厚子)

⑥ 関西支部役員交代のお知らせ

この度、本会の組織体制を見直すにあたり、役員交代を行いました。新体制におきましても、これまで皆様と共に築き上げてきた歩みを大切に受け継いでまいる所存です。これまで本会の発展を支えてこられた前支部長の蓬郷指導士には、長年にわたる献身的なご尽力に対し、深い敬意と心からの感謝を申し上げます。新体制一同、気を引き締めて活動に邁進する所存です。

支 部 長【旧】蓬郷 健 ⇒【新】一岡 頼子

副支部長【旧】一岡 頼子 ⇒【新】川上 宏智 支部幹事新任 井澤 裕子(本部幹事兼任【関西支部長就任あいさつ】)

この度、関西支部の支部長に就任いたしました、一岡頼子と申します。

私は現在、化粧品や食品などの美容関連製品を扱う製造メーカーに勤務しております。もともと「美肌」への関心が非常に高く、体の外側からのケアはもちろん、内側から取り入れる食の力がどれほど肌や健康に影響を与えるか、日々食欲に探究・研究を重ねる毎日です。

最近では、思春期の娘のニキビに親子で格闘しており、まさに日々の食事とスキンケアの両面からアプローチを試みています。食品保健指導士としての知識を家庭の食卓に落とし込み、娘の肌の変化を間近で観察することは、私にとっても「正しい食のあり方」を再認識する貴重な学びの機会となっております。

食品保健指導士は、正しい知識に基づき「食の安全・安心」と「健康増進」をサポートする非常に重要な役割を担っています。しかし、その専門性や存在の意義については、社会全体でまだ十分に周知されているとは言えません。

こうした家庭や現場での実践を通じ、健康に関する疑問や不安を抱える方々に一番近い場所で寄り添い、確かな情報を届けることこそが、私たち食品保健指導士の本来の役割であると再認識しております。

支部長として、まずは皆様が常に新しい知識を身につけ、自信を持って活動できるよう、共に研鑽し合える場を充実させていきたいと考えています。それと同時に、会員同士の「横のつながり」をより太く、強固なものにすることも注力してまいります。一人で悩むのではなく、互いの経験や知見を共有し、支え合えるネットワークを築くことで、食品保健指導士の存在感をもっと社会に示していけるはずです。皆様がこの資格を誇りに思い、その専門性を存分に発揮できる活躍の場を広げていけるよう、誠心誠意尽力してまいります。今後ともご指導とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

あとがき

本号をお読みいただき、誠にありがとうございました。今号では、各地での啓発活動の様様や、本会の新体制への移行など、私たちの活動の「いま」をお届けいたしました。現場で皆様が消費者の方々と対話されている姿や、新たな体制のもとで活動を進めている事をこの紙面から少しでも伝わりましたら幸いです。

日々の業務や活動を抱えながら、ご寄稿やご報告にご協力いただいた会員の皆様には、心より感謝申し上げます。皆様のお声一つひとつが、会の絆を深め、次なる一步を踏み出すための大切なエネルギーとなっております。

季節は移ろい、また新たな課題や挑戦が待っていることと存じます。会員の皆様におかれましては、どうぞご自愛いただき、引き続き「食と健康」の専門家として、それぞれのフィールドでご活躍されますことをお祈り申し上げます。

次号では、より充実した活動報告をお届けできるよう努めてまいります。また紙面にてお会いできるのを楽しみにしております。

会長 鳥沢 泰弘



【今期決定している活動予定】

※第 36 回西日本食品産業創造展日健栄協さんとの出展について

日 時：令和 8 年 5 月 20 日(水)～22 日(金)

場 所： マリンメッセ福岡

当日は健康食品（保健機能、栄養機能、機能性表示、特別用途各食品）の適切な知識の普及活動を実施します。ブース内での説明など、参加していただける方を数名募集しています。詳しくは→jfqakyushu@gmail.com まで

※令和 8 年度（2026 年度）日本食品保健指導士会定時総会

日 時：令和 8 年 5 月 30 日(土)

場 所： 日本健康・栄養食品協会 3 階大会議室 定員 35 名もしくは ZOOM オンライン
(受付開始)13：30（総会時間）14：00～14：50

(記念講話)15：10～16：40 一般社団法人健康食品産業協議会 会長 川久保英一氏
『「健康食品」に対する信頼向上に向けて』

機能性表示食品のこの 10 年の振り返りを軸にいわゆる健康食品を含めてお話頂きます。

※令和 8 年度（2026 年度）日本食品保健指導士会東海支部研修会

日 時：令和 8 年 7 月 25 日(土)

場 所： 「ウインクあいち」もしくは ZOOM オンライン

(受付開始)14：00（研修時間）14：30～16：10(予定)

(記念講話)14：30～16：00 株式会社ヘルシーパス代表取締役社長 田村忠司様

我々アドバイザースタッフがサプリメントについて本質を捉えた説明でしかもわかりやすく発信ができるように、「栄養療法を含めた基本に立ち返ること」、「医療機関専門サプリ」についてお話頂きます。

※令和 8 年度（2026 年度）日本食品保健指導士会関西支部研修会

日 時：令和 8 年 9 月 13 日(日)

場 所： 新大阪駅周辺貸会議室もしくは ZOOM オンライン

（時間）未定 ☆場所・時間決まりましたら改めて告知します。

西沢邦浩氏（日経 BP 総研主席研究員、元『日経ヘルス』編集長）

講演テーマ：「睡眠と食の最前線（仮）」

睡眠は子どもから高齢者まで、あらゆる世代の活力の源です。本セミナーでは、睡眠の質を上げることが日々のパフォーマンス向上や心身の充実にどう直結するかを深掘りします。2020 年の好評を経て、さらに進化した最新の知見を西沢氏から伝授。誰もが自分事として捉えられる「睡眠」を入り口に、指導士としていかに「生活の質（QOL）」を向上させるメッセージを届けるか、その実践的な啓蒙・啓発手法を共に学びます。

※令和 8 年度（2026 年度）日本食品保健指導士会東海支部啓発活動

日時：9 月某日（火曜日）13：30 から 16：00

会場：名古屋商工会議所ビル内 KKC ウェルネス名古屋健診クリニック

内容：健康診断を受けに来られた方にご自身の健康の相談や健康食品についてお話しする

詳しくは→shidoshitokai@gmail.com

※令和 8 年度（2026 年度）日本食品保健指導士会本部研修会

日 時：秋ごろを予定

場 所：宮城県仙台市周辺貸会議室(仙都会館)もしくは ZOOM オンライン

(時間) 未定 ☆場所・時間・講師が決まりましたら改めて告知します。

以上